

第一小で全国へき地教研、算数中心に学力を公開

10月14日、第一小(澤田安男校長、児童30人)で第60回全国へき地教育研究大会北海道大会の公開授業が行われました。



算数を中心にして、各クラス2授業ずつの国語、社会、理科、音楽、特別支援学級を組み合わせ、授業研究の成果を公開しました。

多くの来場者でにぎわい、大会場の体育館5・6年生の授業は、参観の先生が100人以上も詰め掛けて満員状態。参観者でいっぱいにあふれた教室内の授業は場外モニターにもライブ映像で映し出すなど工夫もしました。

①算数を中心とした研究授業だったこと②他の教科を組み合わせた授業公開だったこと③数少ない特別支援学級の授業公開もあったことなどが人気だったようです。

算数は子供たちの学習理解にとって学校教育で大切な教科なので、進んで

100歳長寿の町内3人に総理大臣の祝い

町内在住の山崎ソメノさん、篠原靖昌さん、古高キクエさん3人がそろって100歳を迎え、ともに野田佳彦総理大臣から長寿のお祝いを受けました。



山崎さん、篠原さんのお二人は、介護老人保健施設ひだまりの里に入所しています。松岡市町長が野田総理大臣からのお祝いをそれぞれに伝達、町からのお祝い金も贈りました。ともに「お元気です」どうもありがとうございます」とよろこびの笑顔を見せていました。

古高さんは、現在旭川市内の病院に入院中のため、長男勉さん(72)が役場を訪れ、松岡市町長から伝達を受けました。

勉さんは「母は88歳まで老人クラブに通って元気だったが、たまに『腰が痛い』と病院で治療を受け、かえって腰を悪くしてしまつた。病室では元気で『家に帰りたい』と話しています」などと近況を話しました。

「野鳥の森を育てよう」町内小学生が今年も植樹

9月29日、町内の小学生が忠別川上流のノカナン、「野鳥の森」で植樹をしました。

植えたのは、家具材として代表的なミスナラ、ヤチダモ、イヌエンジュ、野鳥や野生動物のえさとなる実のなる木、オニグルミ、アキグミ、エゾノコリンゴ、ナナカマドなど32種類500本。自然の森を再生しよう、という狙

いで、いずれも周辺の自然林に自生している木々の苗木を選びました。

東川小、第一小、第二小、第三小から児童75人が参加しました。植え方は「生態的混播(ば)」と呼ばれる混植約3メートルの同心円状の植樹範囲に1種類ずつ10本一組にした苗木を植えました。



「在宅で元気に暮らすための」と介護を話し合う



10月22日、農村環境改善センターで「2011大雪地区広域連合介護フォーラム」が開かれました。

東川、美瑛、東神楽3町で国民健康保険などを事務統合している大雪地区広域連合が主催しました。

スウェーデン・クオリティケア(株)のエーミル・オストバリ氏が講演。自立を基本とする在宅ケア中心の同国の介護サービスについて「障害者も高齢者も自立して暮らすことができる在宅ケアが基本。国は歩けなくなった時は歩行用補器を用意し、住宅のバリアフリー改築も無償で支援している。入院ケアに比べてコストも安く、高齢者が望む生活を続けることもできる」などと紹介しました。

続いて、オストバリ氏に加えて、3町で介護福祉業務に携わっている立場から、美瑛慈光会の伊藤秀之部長、東川町社会福祉協議会の村田節子さん、有料老人ホームさわやか東神楽館看護師の柏静子さん、高波澄子旭川大学保健学部教授の5人をパネリストに、山内亮史旭川大学学長がコーディネーターになってシンポジウムを開きました。

高齢者の在宅介護のあり方について「地域で暮らすことを大事にするなら、在宅ケアが実効性のあるものにするために、高齢者が自ら決め、サービスを选べるようにすることが必要。在宅福祉の人材充実も必要」などと課題を提起しました。

「飛んだー!」手作りの紙ロケット夢高く大空へ

10月5日、第二小(工藤芳美校長、児童37人)で植松清社長(赤平、植松清社長)の植松努専務を招いてロケット教室を開きました。5、6年生が紙ロケット製作に挑戦し、グラウンドで青空高く完成したロケットを打ち上げて子供たちの夢を運びました。

「『将来何になりたいの?』と聞かれたら、自分は将来何をやりたいのかを考えよう。大好きなこと、やってみたいことが仕事になったら、自分の夢がかなう」と夢に向かって進む大事さを話しました。

5、6年生12人は、その後植松さんの指導で紙ロケット(長さ約25センチ)を製作。わくわくしながら大空に向かって打ち上げ、楽しいこと、大好きなことへの挑戦と成功を体験。夢に向かって気持ちの大切さを改めて知ったようです。(くらし・ネットワーク15ページ参照)

忠別ダム湖畔で今年もエゾヤマザクラ植樹

10月1日、忠別ダム湖畔の散策広場で、(財)北海道河川財団(札幌)と忠別ダム水源地域ビジョン「遊ing 忠別」(鈴木健治代表)、近くの第三小学校の親子がエゾヤマザクラの苗木植樹をしました。

忠別湖周辺を春一番にエゾヤマザクラが美しく咲き誇る場所にしよう、と昨年からの3年計画で植樹しています。

児童20人の親子と「遊ing 忠別」の会員ら約40人が集まりました。土手の上に樹高約1・5メートル程度に育った苗木85本を植樹しました。

昨年の70本に加えて、150本を越えるエゾヤマザクラの並木が誕生しました。春の散策広場に咲き乱れる満開のエゾヤマザクラを思い浮かべて楽しみにしています。

